

むさしの TALK

松居直美さん
(オルガン奏者)

普段の生活に溶け込むように 常に芸術がそばにあってほしい

芸術に親しみやすいまちのスタイルに惹かれると言う、松居直美さん。
日本を代表するオルガン奏者から見た武蔵野市と芸術との関係は？



松居直美 (まついなおみ)
国立音楽大学オルガン科、同大学院修了。西ドイツ国立フライブルク音楽大学演奏家コース卒業。現在リサイタルをはじめ多くの音楽活動に携わる。市民文化会館小ホールで6月10日(土)にコンサート開催予定。詳しくは<http://www.musashino-culture.or.jp/>から

● PRESENT

今回取材した、松居直美さんのサイン色紙を抽選で5名の方にプレゼント！詳しくは本誌折り込みハガキをご覧ください。



音楽大学への進学を機に、家族で武蔵野市に引っ越してきました。ドイツへの留学や、夫の海外赴任などで武蔵野市から出たこともあります。が、今は根を下ろしています。

ヨーロッパの国々は石の文化で、建物が長く残るため、まちの雰囲気は統一感があるところが素敵です。日本は木の文化なので常に同じ様子を保っているのは難しいですね。でもそれはそれで、変化を楽しめるラ イブ感と言えるかもしれません。

まちのあり方を考えるとき、私は演奏家ですからやはり音楽事業に目が向きますが、武蔵野市はとても充実していると思います。市民文化会館は今工事中ですけど、プレイヤールの立場で言うと、とても贅沢な つくりです。特に小ホールは壁が大 理石でつくられていて音の響きが良 く、お客さまとも適度に近くて気持ち 良く演奏ができる場所ですね。

また年間100本以上のバラエ ティーに富んだ公演を行っているの で、観客としてもたびたび利用して

います。8千人もの人が友の会に入っていてチケットも完売することが多く、芸術に親しみという人がとても多いように感じます。家の近所に劇場があると、やはり芸術がより身近に感じられるようになると思います。ヨーロッパもそうですが、一日の仕事を終えて、家に帰って夕食を食べて、それから近所の劇場に出かけていく。芸術に触れることを生活の中で当たり前にできるのはい いですね。気分をリフレッシュさせ、心を豊かにし、明日への活力を養ってくれる芸術は何にも代え難いものではないでしょうか。武蔵野市は芸術を大切にする気持ちをずっと持ち続けられる親しみのあるまちであってほしいと思います。

